

【高山駅西地区まちづくり】

市民等からのご意見等

※ご意見等は、一部要約や補足をしております。

日付	項目	内容
2024年2月26日	施設整備全般	施設整備基本計画(骨子)は、昨年3月に策定された「高山駅西地区まちづくり構想」に基づき、「ふれあい×にぎわい×つながり」という明確なコンセプトを示し、他施設(機能)の統廃合も含め、人口減少・少子高齢化時代に柔軟に対応できる現実的かつ夢あふれる内容であると考えます。
2024年2月26日	事業スケジュール	施設整備基本計画(骨子)によると、令和12年度に新施設が供用開始される予定とのことであり、大いに歓迎するところである。しかしながら、本体(複合・多機能施設)工事と、現駐車場に建設予定の立体駐車場の工事が同時期に行われることは、何としても避けていただきたい。現在でも複数の催しが重なると、現有の会館駐車場と駅西駐車場だけでは来館者の車を収容できず、近隣の住民や施設等に多大な迷惑をかけている状況が頻出している。約2年間にわたって駅西駐車場のみで対応することは不可能であり、結果的に市民の文化活動等に大きな支障をきたしかねない。 その対応策(修正案)として、立体駐車場の施工を前倒して令和7～8年とすることを提案する。工事期間中は、民間所有地(新施設建設予定地)の駐車場を借り上げ、文化会館利用者の駐車場とする。立体駐車場と施設本体との2階接合部分の取り合い及び運営方法等について調整が必要という新たな課題は想定されるが、複数年にわたって駐車収容台数が大幅に減少する事態を是が非でも回避することを最優先課題として強く要望する。
2024年2月26日	複合・多機能施設の外觀・共通事項	新しく生まれ変わる駅西地区の空間にふさわしいデザイン性の高い建築物(外觀)とし、周囲に緑を多く取り入れることを望む。 また、利用者のスムーズな動線を確保し、利便性を図る観点から、高山駅—新施設—立体駐車場を階上部分で接続することを提案する。その場合は、メインエントランス及び交流スペースは2階に配置し、1階部分はロータリーや事務所、搬入車両の駐車スペースとする。 館内については、全館でオンライン会議等をストレスなく行えるネット環境を整備することを求める。
2024年2月26日	大ホール	ホールの利用形態としては、コンサート、オーケストラ、ピアノ発表会、演劇(ミュージカル)、舞踊、能・歌舞伎、講演会、バレエ、映画会などが考えられるが、これらを催すためには次のような設備が必要である。 ◇照明設備 スポットライト、ピンスポット、吊り込み式のバトン、ムービングライト等。特に吊り込み式のバトンは、自由な演出には欠かせない。ムービングライト等の最新機器を備えることで、外部からの機器レンタルが不要となり、利便性が向上する。 ◇音響設備 反響板は、現施設に設置されている可動式とする。国府や飛騨市のホールは固定式のため、利用形態が限られ、バトンの数も制限されることから照明演出に制約が生じている。 ◇映像設備 吊り込み式のプロジェクターは必須。プロジェクターへの接続ラインは、上手、下手、客席セットボックスの各所に接続できることが望ましい。映写用のスクリーンは異なるサイズを設置し、大きなサイズは舞台前方に吊るして映画会用、中程度のものは舞台中ほどに吊るし、左右に移動させて講演会の際に講師と映像の位置を調整できるようにする。 ◇舞台設備 大ゼリは必要。飛騨センターのように奈落を作って、その下を平台、箱馬等の普段使用しない物品を収納できる倉庫とする。現在、オーケストラピットの利用実績はあまり多くないが、オケピを上げて舞台を広げる機能は、プラスバンドのマーチングなどで利用されている。また、能・歌舞伎・狂言の公演用に松羽目は必需品。そのほか、通常の緞帳に加えて、バレエ公演等で使用する絞り緞帳の設置を希望する。花道は、演出上の自由度を上げるために有効である。 ◇舞台備品 所作台は、舞踊や能・歌舞伎・狂言の公演の際に必要で、その有無によって費用や演出に大きな違いが出る。ピアノは、現有のヤマハ及びスタインウェイの流用で構わないが、引き続き2台は必要。また、独立空調のピアノ庫は必須であり、現在の保管(施設)状況では、ピアノの劣化は避けられない。スモークマシン等の設備は、市民の発表会でも使用するため現行どおり必要である。 ◇舞台袖・倉庫等 可能な限り広めに確保していただきたい。現在は、舞台袖が平台や箱馬、音響用のケーブル等の置き場になっており、十分なスペースが確保できていない。各設備や備品を機能的に収納し、大道具などを円滑に搬入できるようにする。

日付	項目	内容
2024年2月26日	多目的ホール	<p>多目的ホールの利用形態としては、展示会の他に、講演会、会議、映画会、コンサート、ピアノ発表会、芸能発表会などが考えられる。これらを催すためには、可動式の座席の他に、ステージや舞台装置をはじめ、大ホールに準じた各種設備が必要であるが、それらが不足なく整備されることを望む。</p> <p>また、展示会場として使用する際には、壁面の展示レール、大型移動パネル、展示照明、音響設備(BGM用)が必要となるほか、壁面は全面が押しピンをさせるような素材が望ましい。特に、大規模な展示を行う場合は、出品者の搬入口と一般来館者の出入口は分けるべきであり、現施設にはない大型エレベーターは必要である。</p> <p>なお、多目的ホールは、現施設の小ホールと講堂(3-11)を兼ねたスペースを想定しているとのことであったが、いずれも年間を通して多くの利用がある。発表会等は、丹生川、久々野、国府等のホールの利用も考えられるが、大規模展示については代替できる施設がない。新施設において一つの空間で両方の機能を兼ねるのは非現実的で、施設利用を促進するという市の意向とも矛盾するのではないかとと思われる。</p>
2024年2月26日	事業手法	<p>事業手法については、いくつかの案の中から「運営者先行選定方式(DB)」を選択する意向であるとの説明を受けた。その場合は、おそらくサービスプロバイダーの実績がある域外の専門事業者が請け負うことになると思われるが、高山市や各主体がどのような立ち位置で関わることになるのか(そもそも関われるのか)、危惧するところである。</p>
2024年4月1日	展示スペースの確保	<p>オープンスペース、ロビーなど、多様な人々の目に自然に触れる場に、常設で障がい者支援事業の中で作成するなどしたアート作品を展示し、また常設のものとは別に、市民の誰もが作品を飾れるスペース(パネルなどを置くなど)を確保してほしい。</p>
2024年4月1日	離隔されない構造と専門職の配置	<p>世代性別を超えて様々な悩みやハンディキャップを抱えた方々が気軽に立ち寄り集えるような場となるように、出来る限りそれぞれが隔離されない構造とし、そうした方々の交流、助け合いを促進するための専門職としてのコーディネーターを配置してほしい。(コミュニケーションナーズなど)</p>
2024年4月1日	障がい者雇用	<p>施設運営に当たるスタッフを募集する際には、障がい者雇用を積極的に取り組んで頂きたい。</p>
2024年4月18日	広報	<p>高山駅西地区まちづくりの広報に力を入れて欲しい。サイトが見にくく、情報がひと目で得られないため、意見を伝えるのにハードルがある。</p>
2024年4月18日	事業手法	<p>施設のコンセプト、目的、街の声、他の施設での成功例(メディアコスモス等)をよく理解した建築家や総合プロデューサーを起用してほしい。コンセプトやニーズを説明できないままプロジェクトが進んでしまうと建物やプロジェクト自体が一過性を帯びたものとして終わってしまうから。</p>
2024年4月18日	複合・多機能施設のデザイン	<p>多様な属性の人々がゆるやかに繋がりを感じられるようなデザインにしてほしい。同じ街に暮らす市民が、建物内で互いをなんとなく見通せるような、公園のようなデザインになってほしい。</p>
2024年4月18日	市民参加	<p>市民アンケートなどにおいては意味のある聞き取りを行って欲しい。</p>
2024年4月18日	施設整備全般	<p>少なくとも今後100年、市民生活の柱となるような建物を創造してほしい。上京している大学生のUターンや子育て世代の移住の根拠となるような建物にするべきであり、その気概をもって取り組んでいただきたい。</p>